

資源回復計画に関する研究(トラフグ)

(予算区分 交付金 研究期間 平成17～18年度)

担当：水産試験場浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

静岡、愛知、三重、3県の共通の資源であるトラフグ伊勢・三河湾系群の資源水準を、市場調査による漁獲物の年齢組成と漁獲統計資料の解析から評価し、持続的な利用が可能な適正漁獲量を推定します。また、10～2月に操業されるはえ縄漁業の収入増大を図るための操業方法について提言します。

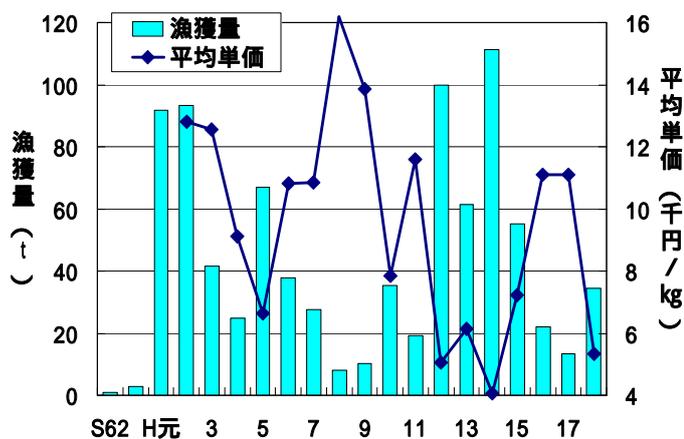
【研究成果】

(平成17年度までの成果)

- ・トラフグ漁獲量は不定期に発生する卓越年級群の影響により大きく変動しました。
- ・現状のトラフグに対する漁獲圧は加入量あたり最大の漁獲量が得られる最適な漁獲圧の約1.8倍と推定され、過剰の漁獲圧がトラフグにかけられていると考えられました。
- ・はえ縄漁期に水揚げされるトラフグは漁期中に成長による増重がみられ、単価も年末にかけて増加する傾向がありました。

(平成18年度の成果)

- ・はえ縄漁期中の体重や単価は年や月により大きく変動し、1歳魚では体重は最大で1.6倍ほど、単価は最大で10倍ほどの違いが見られました。
- ・胸鰭カット標識により、愛知県、三重県の小型底曳網漁業者による小型魚の放流効果を調べた結果、放流された小型魚は翌年の静岡県のはえ縄漁業で1.3%が再捕されていることがわかりました。



静岡県におけるトラフグ漁獲量と平均単価の推移



胸鰭がカットされたトラフグ

【今後の計画】

・普及調査課題として継続して市場調査や試験操業を行い、トラフグ伊勢・三河湾系群の資源水準を把握し、持続的な利用が可能な適正漁獲量及び効率的な漁獲方法を普及指導します。

(作成 平成19年3月)